

平成 28 年度「提案公募型事業」申請書類(2)
 < 受 託 申 請 書 >

ふりがな 団体名	み な と ま ち え い が ぼ - と れ - と み な と ま ち 映 画 ポ ー ト レ ー ト						
ふりがな 代表者名	さ か い た け ひ ろ 酒 井 健 宏						
募集期間 (該当を○で囲む)	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">第1期</div> / 第2期						
事業の分野・テーマ (該当に●印・複数可)	● 【 ○ 】 心地よく安心な港まちで暮らす						公募要領の 「2委託対象 事業」を参照
	● 【 △ 】 魅力的でにぎやかな港まちに集う						
	● 【 □ 】 みんなと港まちを創る						
提案事業名	港まちの映画を作ろう(歴史と防災をテーマに映像で物語を紡ぐ)						
希望金額=A ※5ページ・6ページの Aと同額を記入	9	9	5	9	0	0	円
期間 (準備～事業終了日)	平成28年6月1日 ～ 平成29年2月19日						

【提案事業の計画】 ※ 簡潔かつ具体的に記入してください。

(1) 事業の目的・見込まれる成果

上記で選択した事業の分野・テーマ(○・△・□)について、具体的にどのような目的を持ち、どのような成果を見込む事業であるか、詳細に記入。

<p>本事業は、以下の3点の目的、および見込まれる成果を持つ事業である。</p> <p>1点目に、港まちを舞台とする物語映画を撮影する過程で、地域の歴史・景観・暮らし・防災への取り組みについて、あらためて見つめる機会を創出することを目的とする。慣れ親しんだ日常的な風景が、映画として印象的なショットやシーンへとまとめあげられる中で、地域の特色や魅力を再発見し、より深い愛着の感情へとつながってゆくことが見込まれる。</p> <p>2点目に、制作する映画の物語において、災害の記録や爪跡をたどる内容を盛り込むことで、被災の記憶を共有し、防災に対する意識を高めることを目的とする。もしものときに想定される被災の様相、および避難行動の重要性について、世代を超えたコミュニケーションの発生の起点となることが見込まれる。</p> <p>3点目に、映画の制作と上映活動を通して、港まちの内外の人々の交流を促進し、地域の魅力を広く発信することを目的とする。多様な分野の人々が連携、および協調する機会の創出が見込まれる。</p>
--

(2) 事業の概要

<p>1. 港まちを舞台とする物語映画(30分以上かつ60分以内の中編作品)を制作する。港まちの人・もの・暮らしに関連する内容を多く盛り込み、取材・ロケハンを重ねながら脚本を構成する。撮影の際、ロケ地はすべて港区内で設定し、住民の方の理解と許可を得た上で敢行する。現場スタッフおよび出演キャストにて、住民の方々に協力を仰ぐ。</p> <p>2. できあがった映画を上映し、地域の内外の人々に鑑賞してもらい機会を設ける。その際、制作プロセスの記録(写真や文字テキストなど)や協力スタッフ・キャストのコメンタリーなどもあわせて展示および公開する。</p>

(3) 事業の具体的な内容与方法〔内容、実施日・実施場所、想定参加者等〕

1. 内容

(1) 企画書の作成と脚本(ドラマ台本)の執筆準備 → 団体メンバーのみで行う。物語映画の企画意図、あらすじ、およその制作スケジュール、予算の配分を決定する。あわせて、港まちの歴史や風土、特色や魅力を調査し、現地におもむいて取材を行う。

(2) 脚本の完成とロケ地の選定 → 団体メンバーを中心に行う。脚本上の設定に合わせ、ロケ地として使用する場所を探索する。行政の管轄地や法人の所有地の場合、使用の可否を担当部署へ確認する。一般家屋や個人商店の場合は、地権者に相談する。しかるべき手続きを踏み、使用許諾の取り付けよりも、本事業に対する地域の人々の理解を得ることを優先し、地域の人々と信頼関係を構築することを目指す。

(3) キャストの決定と撮影スケジュールの調整 → 団体メンバー、協力スタッフ、キャストとともに進行。出演キャストを決定し、具体的な撮影準備を始める。主要キャストについては、必要に応じてオーディションを行う可能性がある。早期に撮影日程を決定し、地域の人々からも撮影への参加者を募り、広くスタッフ協力やエキストラ出演などを要請したい。

(4) 撮影と編集、および上映に向けた準備 → 団体メンバー、協力スタッフ、キャスト、地域の人々とともに進行。撮影は7日間(予備日を含めると8日間)を想定している。参加者全員の安全を優先し、開始と終了の時刻に十分に配慮する。撮影後はすみやかに編集作業に入り、早期の完成を目指す。並行して、団体メンバーを中心に上映会場の選定と準備、上映チラシ・ポスターなどの作成および配布を進める。

(5) 完成作品の上映と展示 → 団体メンバー、協力スタッフ、キャスト、地域の人々、来街者の人々とともに進行。できあがった映画を上映し、地域の内外の人々で鑑賞し、感想などを交わすことで、交流を促進する。

2. 実施日・実施場所(屋外で実施する場合は、雨天時の対応も記入してください。)

- ・5月～6月: 企画書の作成と脚本の執筆
- ・6月～7月: 脚本の完成とロケ地の選定(ロケ地の探索: 港区内の各所)
- ・7月～8月: キャストの決定と撮影スケジュールの調整
- ・8月～9月: 撮影期間(屋外撮影日に雨天であれば順延、または団体メンバーとキャストのみで行う)
- ・9月～12月: 編集、および上映に向けた準備
- ・1月～2月19日: 完成作品の上映と展示(会場は POTLUCK BUILDING または 港文化小劇場を希望)

3. 想定参加者人数・参加者層

(1) 企画書の作成と脚本の執筆準備 → 団体メンバーが中心(2～5名)
 ・団体メンバーが港まちの歴史や風土、特色や魅力の調査のために、現地におもむいて取材を行う際は、訪問した先の地域の人々や店主の皆さんにインタビューをする。
 ・西築地学区を中心に調査、取材を行う予定である。

(2) 脚本の完成とロケ地の選定 → 団体メンバーとロケ候補地付近の地域の人々(5～10名)
 ・ロケハン時に会える地域の人々で、本事業に理解と関心を示してくれる方。
 ・港まちの歴史や魅力を映像として伝えることに関心を示してくれる方。

(3) キャストの決定と撮影の準備 / (4) 撮影と編集、および上映に向けた準備
 → 団体メンバーとスタッフ・キャスト、出演協力要請に応じてくれる地域の人々(全30名程度)
 ・港まちの歴史や魅力を映像として伝えることに関心を示してくれる方。
 ・映画の制作や作品への出演に興味を示してくれる方。
 ・港まち、および映画を愛する方。

(5) 上映と展示 → 団体メンバーとスタッフ・キャスト、地域の人々、来街者の人々(60～80名程度)
 ・港まちの特色と魅力を広く発信したいと考えている方。
 ・名古屋の港まちの魅力を再発見し、防災への意識を高め、地域間交流を活発にしたいと考える方。

(4) 広報手段

- (1)・(2)・(3)・(4)制作支援者、ロケーション協力者、制作スタッフ、出演キャスト、エキストラの募集について
- ・西築地学区を中心にチラシ配布やWeb 媒体への情報投稿によって広く募集したい。
 - ・ただし、なるべく顔の見えるやりとりを優先し、地域の人と信頼関係を築く中で、参加・協力者を募りたい。
 - ・まちづくり協議会とも相談させていただき、より適切な告知・募集の手段を検討したい。

(5) 上映、展示イベントへの来場者の呼び込みについて

- ・チラシ、ポスター、facebook、twitterなどで名古屋市および周辺地域に向けて広く告知する。
- ・名古屋市および周辺地域の各映画館、ギャラリー、ライブハウス、教育機関にチラシを配布する。
- ・団体メンバー、出演キャスト、協力スタッフ、地域の人々にゆかりのある人に向けて広く告知する。
- ・制作状況を伝えるプロダクションノート、完成後のレビュー、批評などテキストを用いて告知する。
- ・クロスメディアである映画の長所を活用し、劇中で使用する写真、イラスト、アニメーション、音楽、造形物など、それぞれの芸術的表現に関心ある人々に向けて積極的に注目を喚起する。

(5) 事業のスケジュール(準備～実施～実施後の実施運営スケジュール)

- ・5月～6月:企画書の作成と脚本の執筆(港まちの特色や魅力の取材と調査を並行して行う)
- ・6月～7月:脚本の完成とロケ地の選定(ロケ地探索で各所を巡り、交渉と信頼関係構築に努める)
- ・7月～8月:キャストの決定と撮影スケジュールの調整(オーディションを開催する可能性がある)
- ・8月～9月:撮影期間(屋外撮影日に雨天であれば順延、または団体メンバーとキャストのみで行う)
- ・9月～12月:編集、および上映に向けた準備(上映チラシ、ポスターの作成、告知と宣伝に努める)
- ・1月～2月19日:完成作品の上映と展示(会場は POTLUCK BUILDING または港文化小劇場を希望する)

(6) 事業の運営体制(スタッフの役割・人数や委託外注の活用等による運営体制、地域との連携など)

- ・制作現場や上映会場のスタッフワークにおける主要各パートは原則として団体メンバーが担当する。(脚本、演出、撮影、照明、録音、編集、助監督、監督、製作プロデューサー、司会、PA など)
- ・各パートには、有志の協力スタッフ、または学生スタッフがボランティアとしてサポートに入る。
- ・ヘアメイクアーティスト、スタイリスト、スチルカメラマンなど、過度に専門性の高いスタッフは撮影日のみ外部から招くこととする。
- ・主要キャストは出演シーンの撮影日、および衣装合わせや台本合わせにも参加する。その際、マネージャーや保護者が同伴する場合もある。
- ・撮影に協力いただくこととなる地域の人々は、自発的な参加・協力を大前提とする。過酷な環境下や十分な安全が確保できない状況下での参加・協力がないように、団体メンバーはつねに配慮する。

【事業のアピール】

次の各項目は審査基準と同じで、審査の判断材料となります。事業のアピールポイントを具体的に箇条書きで記入して下さい。(公募要領の12の審査基準の欄を参照してご記入ください。)

(1) 実現可能性

- ・団体メンバー全員がそれぞれ映像制作会社、映画館、広告代理店、ギャラリーなどの文化や芸術と関わる業種で仕事に従事した経験を持ち、専門性に秀でている。
- ・団体メンバーに芸術系大学・専門学校での講師経験を持つ者が半数おり、より若い世代に積極的に協力と参加を促すことで、港まちと人の魅力を広く波及させ、新鮮な活力を呼び込むことができる。
- ・一般に映像によるドラマ制作はコストが高く、スケジュールがタイトになりがちである。それは成果物のクオリティの高低に直結しやすい。当団体のメンバーはフリーランスで映像制作に従事する者が多く、平素よりこうした問題を自覚し、それに対処するためのノウハウを磨いてきた経験を持っている。

(2) 積算の妥当性

- ・本事業の予算の内訳は性質上、大きく2点に分かれる。すなわち、成果物の制作に費やす諸費用と、成果物の上映・展示に費やす諸費用である。前者は撮影準備から実施に係る費用であり、全予算のおよそ3/4を占める。後者は上映のための会場施設と広報ツールの準備に係る費用であり、全予算のおよそ1/4を占める。
- ・本来、映画制作には、撮影のために使用する専門機材(カメラ、マイク、照明など)の購入代やレンタル代に莫大な予算を割り当てるのが一般的である。本事業では、団体メンバー各自の所有する機材、および教職に従事する学校からの無償での機材貸与により、これに係る費用を大幅に削減する。

(3) 公益性・社会貢献性

- ・記録映像やドキュメンタリーが伝える客観的な港まちの姿を、後世に残していくことは何事にも代えがたい価値を持つ。同時に、その価値を忘れないために、一步踏み込んだ姿勢から港まちの魅力を拾い上げ、物語的想像力を持ってつないでいく試みも重要であると考えられる。客観的な視点と主観的な視点、またはノンフィクションとフィクションの交差点として、物語映画の形を取りながら、港まちのポートレート(肖像)を描きたい。また、ドラマ性を持つ物語映画は、すべての人、どの世代の人にとっても馴染み深いものである。本事業が港に集う多様な人々のターミナルとして機能することを期待する。

(4) テーマとの整合性

- ・心地よい港まちでの暮らしを映像として表現する際に、本事業では単に観光イメージとして映えるのみの映像を撮影しようとは考えていない。人々の日常的な暮らしの垣間見える味わい深い町並みを多く盛り込むこととし、港まちに点在する数々の魅力的な場所や資源を物語的想像力をもってつなぎたいと考えている。
- ・安心な港まちを表現する際に、本事業では物語の主人公が防犯や防災について日頃から意識的に取り組んでいるという設定にしようと考えている。災害などに見舞われやすい港まちで暮らすための注意点やヒントを、主人公の言動や行動をもとに表現したい。
- ・魅力的でにぎやかな港まちの姿について、主人公たちがその特色を語る台詞を脚本に数多く取り入れ、また個性的な登場人物たちを造形することで表現したいと考えている。
- ・みんなとまちを創るという観点に立てば、映画の制作と上映は非常に適している。撮影現場には多くの人が集まり、協働して作業にあたる。上映会場には鑑賞者が集い、一つのスクリーンを介して時空間を共有する。

(5) 将来性

- ・名古屋市と周辺地域で自主的な動機から映像作品を制作する者にとって、これまで名古屋港周辺は格好のロケーションとして、作品制作に利用してきた場所である。海、港、公園、ウォーターフロント、工業地帯、広大な干拓地など、フレームに切り取るだけで容易に印象的な光景を持ち帰ることができる。しかし、こうした安易な撮影行為は、必ずしも港まちやそこで暮らす人々のためになるとは限らない。当団体のメンバーの多くも、これまで港での撮影を行ったことがある。自戒を込めて振り返りつつ、本事業の実施をもって、港まちの人々により深く寄り添い、広く魅力を伝えることができる、前向きな機会へと発展させてゆけるような土台を作りたい。具体的には、制作の過程で訪れる場所や撮影に使用するロケ地をマッピングし、港まちづくり協議会と連携することでロケーションマップを作成したり、フィルムコミッションと似た役割を果たす窓口を設置することなどが考えられる。

(1) 支出の部

項目	金額(円)					
①外部講師謝金						0 円
②旅費交通費			7	8	0	0 0 円
③会議費						0 円
④物品購入費			8	9	6	0 0 円
⑤借上料			6	4	3	0 0 円
⑥保険料			4	0	0	0 0 円
⑦人件費		6	9	8	0	0 0 円
⑧委託外注費						0 円
⑨通信費						0 円
⑩印刷製本費			2	6	0	0 0 円
⑪事務費等						0 円
総支出合計=A (港まちづくり協議会からの委託契約金額合計) (1ページのAと同額かご確認ください)		9	9	5	9	0 0 円

- ※ 参加費を徴収する事業の方は、参加費で充当される予定の品目は入れないでください。
- ※ 参加費で充当される予定の品目は、(様式1)の【徴収される参加費に相当する事業費】に計上してください。

(2) 対象経費明細 ※対象経費明細のエクセル形式(様式2)の使用も可能です。

項目	経費の内訳 人数、単価、数量、回数等の明細を具体的に記入してください。
①外部講師謝金	
0 円	
②旅費交通費	(団体メンバーの交通費を1日につき一律1,000までとする) 取材・ロケハンにかかる旅費交通費 7日間 @1,000×2名×7日=14,000 撮影にかかる旅費交通費 7日間 @1,000×8名×7日=56,000 上映会当日にかかる旅費交通費 1日間 @1,000×8名×1日=8,000
7 8 0 0 0 円	
③会議費	
0 円	
④物品購入費	撮影に使用する衣装・メイクアップ用品(主要キャスト8名×7日間) 30,000 撮影に使用する小道具・大道具(セットの構築に必要な調度品など) 40,000 無償ボランティアスタッフのための弁当購入費用(400×7名×7日間) 19,600
8 9 6 0 0 円	
⑤借上料	(上映会場として港文化小劇場を利用した場合) 施設利用料 午後から夜間(土日祝) 49,000 附属設備利用料 音響 3,900(@1,800×2) 照明 3,400(@1,700×2) 映写 8,000(@4,000×2)
6 4 3 0 0 円	
⑥保険料	撮影日 保険料×7日 上映日 保険料×1日 (概算)
4 0 0 0 0 円	
⑦人件費	主演キャスト 出演料(交通費含む) @8,000×2名×7日間=112,000 その他キャスト 出演料(交通費含む) @6,000×6名×3日間=108,000 メイク、衣装担当スタッフ 謝金(交通費含む) @7,000×2名×7日=98,000 その他の主要撮影スタッフの person 費 @5,000×8名×7日=280,000 編集およびチラシ・ポスターを作成するスタッフの person 費 @3,000×2名×10日=60,000 上映会場の設営・受付・進行を行うスタッフの person 費 @5,000×8名×1日=40,000
6 9 8 0 0 0 円	
⑧委託外注費	
0 円	
⑨通信費	
0 円	
⑩印刷製本費	協カスタッフ、キャスト募集チラシ印刷費(A4/片面モノクロ/200部) 2,000 上映会チラシ印刷費(B5/両面カラー/2,000部) 12,000 上映会ポスター印刷費(B2/片面カラー/100部) 12,000
2 6 0 0 0 円	
⑪事務費等	
0 円	
総支出合計=A	
9 9 5 9 0 0 円	1ページ・5ページのAと同額かご確認ください